

SGH 通信 STONE SOUP

Mishima-Kita High School SGH Newsletter

March 18, 2016 No. 4

課題研究でポスターセッション

平成 28 年 2 月 2 日 (火)、沼津市のプラサ・ヴェルデにて平成 27 年度 SGH 事業報告会が開催された。事業報告・分析等の後、生徒計 12 チームが 100 人を超える来場者を相手に堂々と表現力豊かにポスターセッションを行った。

今年度の SGH 事業の大きな柱は LWI (Local Water Issues) とベトナム海外研修の 2 つである。今年度より始まった LWI の授業では、1 年生全員が地域の水問題に取り組んできた。チームごとに設定した水課題に対する解決方法を、「研究目

的・仮説・考察・結論」という項目立てで、英語でポスターにまとめ、ポスターセッションを実施する。今回の報告会には、クラス発表で最も優れた代表 7 チームが参加し、半数ほどが発表も英語で行った。また、昨年 8 月ベトナム・ハノイへ派遣された 14 人の生徒たち (2 年生 2 人、1 年生 12 人) は、事前研修・現地フィールドワーク・事後研修を通じて、ベトナムにおける水課題の解決方法を調査した。彼らは 5 チームに分かれて英語ポスターを制作し、全員が英語でのセッ

Presentation skills ; this is one of the skills which we've been learning through the SGH activities. It is very useful for us to tell and share with other people about our ideas, research, and so on. Through the activities, I've been thinking about how I can do this better and more effectively, and trying to use my thoughts in practice. I hope a lot of you will make good use of these great opportunities (LWI, GWI...etc) too and think about them as one of the hidden keys to be a "Global Leader."

(11HR・Kousuke Matsumura)

ションに挑戦した。

経験するごとに大きく成長する生徒たちは、頼もしく、感動すら覚える。

(SGH 担当教諭・川村陽一)



写真=左上：事業報告会でのパネルディスカッション。左からコーディネーターの松本茂氏 (立教大学グローバル教育センター長)、パネリストの橋本淳司氏 (水ジャーナリスト)、野村賢一氏 (県総合教育センター総合支援課指導主事)、福元英美氏 (静岡大学教職大学院)、本校職員 3 人。左下：ポスターセッションで英語で解説する海外研修に参加した生徒。右上下：来場者の質問に答えるクラス代表チームの生徒。

1. 異文化理解講座を開催

県内大学に在籍する海外からの留学生や来日中の海外大学生、海外経験豊かな専門家を招き、出身国の水にまつわる講演とともに、その国の文化などを紹介していただいた。今年度は特別編を除き3回開催し、「ベトナム」、「ネパール」、「モザンビーク」をテーマとした。



●モザンビーク編の講師が「貧しいことが不幸なのか」ということをおっしゃっていました。彼らはきっとたくさんのゲーム機や本などは持っていないと思いますが、とても楽しく暮らしている。私たちは、モノがあってもつらくなったり悲しくなったりする。もっと彼らに学ぶべきものがあるように感じました。(13HR・木村沙帆)

2. 第10回高校生英語ディベート大会静岡県大会に出場

国際交流室に所属する1、2年生14人が、英語ディベートに取り組んだ。11月1日の県大会では7校11チームが英語ディベートの力を競い合った。本校からは、2チームが出場した。

●私は英語力向上を目標にディベートを始めました。議題が難しく想像以上に大変でしたが、取り組んだ後は英語力の向上を実感できました。社会問題を考えるきっかけにもなり、やってよかったと思います。(26HR・中村友美)

3. 「三北ウォーター・フォーラム」を開催

11月14日、LWIの成果発表の機会として、「三北ウォーター・フォーラム」を開催した。前半は、国際交流室の生徒がSGHについて、ベトナム海外研修に参加した生徒5チームが同研修について、全校生徒を前に、英語でプレゼンテーションを行った。後半は、LWIの各HR代表7チームと海外研修参加チームが、1年生全員とオープン・スクールで来校した中学生と保護者を対象に、ポスターセッションを実施した。セッション終了後、SGH推進会議委員などによる審査結果が発表され、HR代表と海外研修参加生徒から各1チームが表彰された。



●体験中学生の声：プレゼンテーションでは英語がスラスラ言えていてかっこよかったし、ポスターセッションの説明が分かりやすかったです。楽しく活発に研究している様子で、北高の魅力が伝わりました。

4. LWIポスター制作をスーパーグローバル大学(SGU)の学生が支援

LWIの英語版ポスターを制作するにあたり、文科省指定のSGUの5大学から12人の学生が来校し、生徒をサポートしていただいた。学生の所属大学は次のとおり。慶應義塾大学・大学院、上智大学、立教大学、国際基督教大学、早稲田大学(順不同)。また、県総合教育センターのALT2人にも支援いただいた。



5. 外部ワークショップ等への参加、研究発表

- ・SGH高校生東海サミット2015(7月5日):参加生徒5人(会場・三重県立四日市高校)
- ・高校生国際ESDシンポジウム@東京2015・第1回SGH校生徒成果発表会(11月18日):参加生徒4人(会場・筑波大学文京校舎講堂)
- ・全国語学教育学会(JALT)パネルディスカッション(11月22日):参加生徒1人(会場・静岡県コンベンションアーツセンター)
- ・SGHミーティング(12月19日):参加生徒3人(会場・名城大学附属高校)



●(SGHミーティングに参加して)ハーフは日本では49人に1人という割合であることや「他の人と違う」ことで苦労が多いということを知った。ミーティングにはハーフ、留学生も参加していた。差別、偏見、コミュニケーションがうまく取れないなど悩みがあったそうだ。私も無意識に偏見を持っている時がある。「違う」ということへの意識を変えていかなければいけないと感じた。課題にグループで取り組み、全員知らないもの同士だったが、楽しく話し合うことができた。(16HR・高橋沙奈)